
赤ちゃん

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤ちゃん

【コード】

N1666M

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

福岡は届いた封筒を開けた。中に写真が数枚入っていた。

福岡は届いた封筒を開けた。中に写真が数枚入っていた。味噌蔵や巨大な味噌樽、そして売り物の味噌の写真。

味噌屋のネットショップを作るための素材写真だ。

「吉田君、スキャンしておいて」

「はい」

福岡は部下に封筒を渡した。

「あれっ」

吉田が妙な声を出す。

「どうした、足りないか？」

「これもアップするんですか」

吉田は一枚の写真を見せた。

福岡は一瞬妙な空気が身体を擦り抜けたような気持ちになる。

「なんだよ、これ」

「マスコットキャラじゃないですか？」

「こんなマスコットはない」

「味噌屋の商標とか？」

「赤ちゃんの写真じゃないか」

「そうですねえ」

男の子が和服を着て写っている。かなり古い白黒写真だが非常に鮮明だ。中判カメラで写したものだろ。同封されている他の写真は普通のサービサイズでプリントしたものだ。この一枚だけが場違いな場所に紛れ込んでいるように思える。

「座敷わらしのようなもんじゃありませんか？ 縁起物として、店に

飾ってあるんじゃないか？」

男の子はふてぶてしい老人のような表情で、こちらを見ている。

「創業者じゃないのかな？」

「赤ちゃんがですか？」

「そうだな。そんなわけないか」

赤ちゃんは羽織り袴で木の椅子に座っている。背景は床の間で、掛け軸も見える。

「相当古いなあ」

「これ、どこに使います？」

「使えんだろ。客が引くよ」

「ですね」

福岡は赤ちゃんをもう一度見る。妙な世界へ引つ張り込まれる気配を感じ、すぐに目を逸らせた。

「うちにもありましたよ、こういう写真」

「わしがこの家で一番偉いと言ってるような写真だなあ」

「着物が怖いんですよ着物が。だから可愛くないんですよ」

「そうだなあ」

福岡は味噌屋へ電話した。この写真は載せられないことを了解してもらったためだ。

「そんなあ」

電話を切ったあと手にしていた写真を裏返した。

「どうしました？」

「そんな写真送ってないって……」

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1666m/>

赤ちゃん

2010年10月11日08時39分発行